

5 . 今後の展開（今後の展開として予定していること）

1) 下谷病院跡地の暫定利用によるイベント活動

- ・ パネルディスカッションでパネリストを依頼した「たいとうプレーパークの会」と江戸川区や世田谷区で公園・広場ワークショップを展開しているランドスケープ事務所とのネットワークを活用し、今後実際に広場が整備されるまでの期間は、一日プレーパークや子供とのワークショップを実験的に行っていく。

2) 谷中地区と共同による NPO 組織の立ち上げ

- ・ 同時に密集事業を進めている谷中地区と共同で地域の建替え相談窓口となるような CDC の立ち上げを考えている。
- ・ これは、不動産関係者、建築関係者、法律関係者など専門家のネットワークによる団体を想定しており、下町型住宅の実践や、空き家を活用した地域活性化の仕組みづくりなどに取り組んでいく。

6 . 活動のポイント

1) 活動の人材

- ・ 区がまちづくり相談員及び密集事業の計画づくり支援で委託しているコンサルタント：地域に密着してまちづくりに取り組み如何にまちの信頼を得るか。コミュニティプランニングの視点でまちに関わることが大切である。
- ・ 研究機関（大学）：法政大学陣内教授が、20 年前に根岸をフィールドとして研究していたこともあり、大学院生が協議会へ参加することとなった。
- ・ 小学校の総合学習学年主任：小学校 3 年生を対象としたまちづくりの講義があり、区のまちづくり推進課課長が講師で呼ばれた。まちづくり協議会活動の宣伝をかねて、同行させてもらい、学年主任の協力を得ることができた。地元組織のネットワークだけでなく、コンサルタントあるいは役所がそれをつなぎあわせていくことが大切である。

2) 活動のための資金調達

- ・ 協議会が発行する瓦版ニュースの趣旨に賛同する協賛会員を協議会メンバーが自分たちの足で集める。協賛会員からは、瓦版ニュースの中面マップに、店舗や事務所の情報（場所、営業時間、定休日、電話番号等）を掲載するかわりに、協賛金をもらい、その協賛金により次回以降のニュースの用紙・印刷代を捻出する仕組みとなっている。

都市居住再生に資する中間領域組織活動に関する調査

